

景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(令和 7 年 12 月)

～中国の渡航自粛等の影響が続き、現状判断は 2 か月連続の低下～

- 景気ウォッチャー調査・12 月調査の近畿地域の結果は、現状判断が 46.1 と前月比で 2 か月連続の低下（－3.4 ポイント）となり、好不調の判断の目安となる 50 も 2 か月連続で下回った。一方、先行き判断も 48.8 と 2 か月連続の低下（－0.4 ポイント）となった。
- 足元の景気については、12 月に入って気温が十分に下がらず、特に月後半を中心に平年を上回る気温となったことで、百貨店などを中心に季節商材の売行きが悪化している。また、インバウンド市場では、前月中旬からの中国の渡航自粛の影響が広がり、百貨店やホテルといった関連業種を中心に悪影響がみられる。もともと万博の閉幕による客足の減少が予想されたタイミングと時期が重なったことで、観光関連では打撃を訴える声が広がっている。
- なお、企業を取り巻くコストの上昇傾向が続く中、物価上昇による影響は依然として厳しい。特に米などの食料品価格の上昇による影響は大きく、消費者の間で節約志向が強まっており、スーパーや家電などを中心に幅広い業界で購入量の減少などが指摘されている。
- 景気の先行きについては、中国による渡航自粛が続く中、インバウンド市場への悪影響の継続を不安視する声が広がっている。ちょうど 2 月には春節商戦を控えているだけに、百貨店やホテルを中心に売上への悪影響を懸念する声大きい。
- 関西ではこれまで訪日客消費は数少ない需要の下支え要素として、本調査でも DI の押し上げに寄与してきたが、12 月は前月に続いて厳しい見通しとなっており、DI 全体に対しても押し下げに働く形となっている。
- さらに、物価やコストの上昇に対する警戒感も依然として強い。消費者の節約志向が強まる中、価格転嫁は困難となっており、スーパーやレストランのほか、製造業などの企業関連でも厳しい声が聞かれる。
- こうした物価の上昇の動きに、円安水準の継続という外部環境の悪さが重なり、賃金の見通しの悪化にもつながったことで、今後の国内消費の見通しについても楽観的な声は少ないのが現状である。

「中国の渡航自粛」関連のコメント(現状判断)

家計動向関連	な っ て い る	百貨店（外商担当）	・ 海外の高級ブランド品が非常によく売れており、特に高額品の売上が前年よりも大きく伸びている。中国からの観光客の減少により、インバウンド売上が少し落ち込んでいるものの、国内の富裕層を中心とした購入意欲はかなり旺盛である。
	変 わ ら な い	百貨店（売場主任）	・ 中国からのインバウンドが減り、国内客が増えると予想されたが、実際には国内客の売上にも大きな変化はない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（総括）	・ 百貨店売上は前年並みで大きな変化はないものの、お歳暮などのギフト需要は年々減少している。その代わりに、大阪・関西万博関連の商品がまだ好調で、売上の減少をカバーしている。一方、インバウンドの動きに大きな変化はみられず、中国の渡航自粛による影響も少ない。
		都市型ホテル（フロント）	・ 中国の渡航自粛の影響は全くみられないほか、香港や台湾からの動きが、例年と比べてもかなり好調となっている。

家計動向関連	変わらない	その他レジャー施設 〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	・12月に入ってスキー場がオープンし、雪目的のインバウンドが増えている。元タインバウンドの団体客は多くなく、中国からの予約も少ない上に、韓国を含む他の国からの新たな予約が入っている。個人客は人数が把握できないものの、タイやシンガポール、マレーシアといった東南アジアからの客が目立っている。
	やや悪くなっている	百貨店（広報担当）	・国内客については、気温がやや高めで推移したため、重衣料を中心とした冬物衣料の動きが鈍かった。また、クリスマスギフトも購入価格の2極化が加速し、ボリュームゾーンとなる中間価格帯の商材が苦戦した。その一方、食品の売上は堅調な推移となったものの、インバウンドは特に航空便の減便などで中国からの客が減少し、免税売上が前年比で大きく減少している。
		百貨店（商品担当）	・春以降は回復傾向にあったインバウンド売上が、日中関係の悪化が原因で、12月は前年比で25%減となっている。大阪は他地域と比べて、中国への依存度が高いため、その影響は大きい。一方、国内需要は株高の恩恵で富裕層による宝飾品需要は好調であるものの、中間層の消費は物価高や政策金利の上昇などで低迷している。
		百貨店（宣伝担当）	・前月後半から中国からの観光客が激減しており、免税売上が前年を下回っている。ラグジュアリー商材など的高額品は、為替の影響もあって減少幅は小さいが、化粧品を中心とした雑貨や小物類は売上が大きく減少している。
		家電量販店（人事担当）	・気温が下がきらず、冬の到来が遅れている。そのため、暖房器具の売行きが芳しくないほか、中国の渡航自粛によりインバウンドの売上も低迷している。
		一般レストラン（経営者）	・中国による渡航自粛の影響は徐々に出ており、中国からのインバウンドでにぎわっていた飲食店は、特に団体客の減少がみられる。一般の団体客の忘年会需要はあったものの、少人数などでの忘年会は前年と比べて大きく減少している。また、2次会での需要も激減するなど、物価の上昇で外食を控える動きが目立っている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・中国の渡航自粛による団体客のキャンセルはみられるものの、個人客の売上は微減にとどまるほか、キャンセル料も確保できている。
		都市型ホテル（客室担当）	・日中関係の悪化によるインバウンドの減少と、市場の閑散期が重なり、予約のペースが鈍化している。当ホテルではインバウンドの比率の低下は余りみられないが、中国からの客が減少することで、インバウンド全体が予想以上に減少している。
		旅行代理店（支店長）	・大阪・関西万博が閉幕し、関西に向けられていた客の旅行需要が、他の地域に向かうと予想していたが、現状はその動きがみられない。中国からのインバウンドの動きもほぼ止まり、関連業界も影響を受けつつある。
	悪くなっている	百貨店（企画担当）	・11月後半以降、中国からの客の売上は減少していたが、12月19日を境に悪化が加速し、直近は前年比で33～50%減となっている。その結果、中国以外の免税売上は前年比で10%程度増えているが、免税売上全体は20%程度の減少となった。一方、国内売上は曜日や販売促進策の影響を除くと、ほぼ前年並みとなっている。
企業	なったり良くなる	化学工業（管理担当）	・台湾問題への中国の対応が、当社にはプラスに働いている。
雇用関連	変わらない	職業安定所（職員）	・求人数は3か月前と変わらず推移している。管内の求人企業には観光関連が多いなか、現状は中国の渡航自粛による影響も出ておらず、求人の申込みにも変化はみられない。
	やや悪くなっている	人材派遣会社（管理担当）	・日中関係の悪化により、中国からのインバウンドが減少している。それに伴い観光業に影響が始め、派遣の打ち切り、求人案件の中止など、人員の削減が始まっている。
		職業安定所（職員）	・11月中旬からの中国の渡航自粛により、宿泊業への影響が少しずつ出ている。ただし、都市部や観光都市と、その他の地域との差は顕著であり、大きな影響とまではいえない。一方、10月以降の最低賃金引上げにより、扶養控除の範囲内での就労希望者が労働時間を減らし、人手不足が生じている企業も散見される。今年度は最低賃金の引上げ時期が県ごとに異なるため、影響が断続的に続くと思われる。

「万博閉幕」関連のコメント（現状判断）

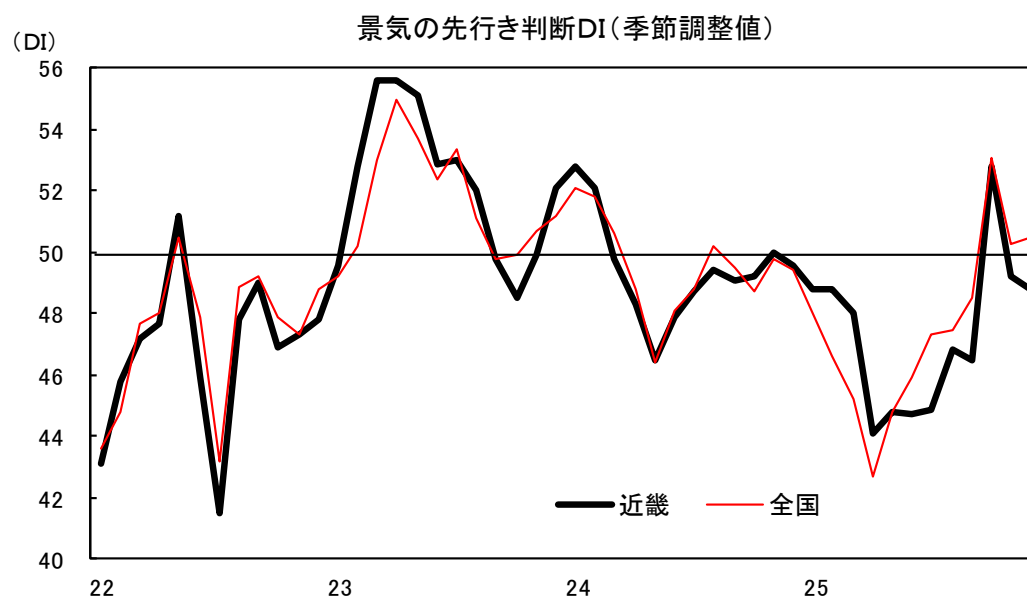
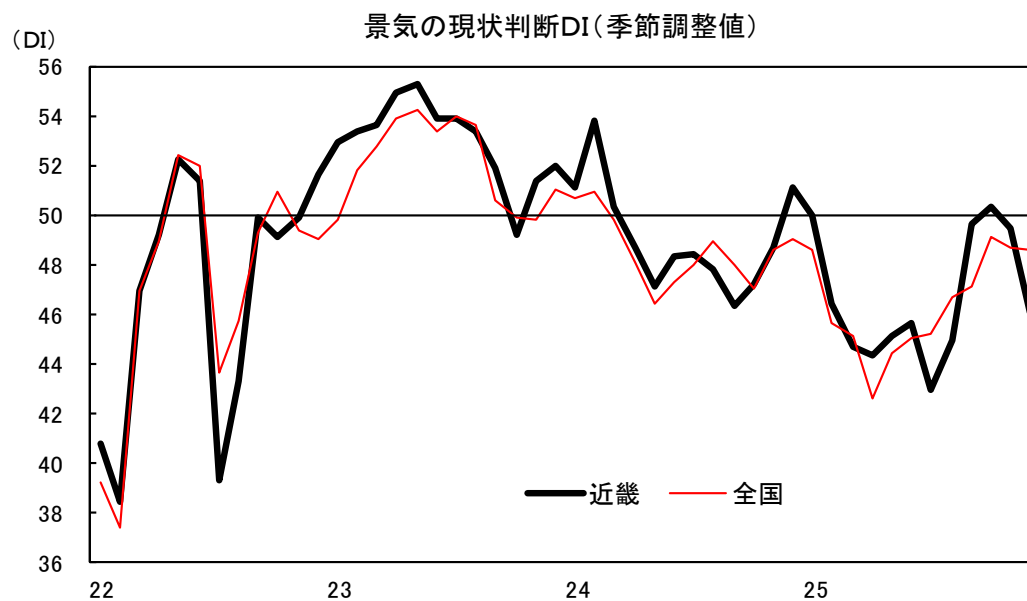
家計動向関連	なったり良くなる	百貨店（商品担当）	・大阪・関西万博の閉幕以降も、万博関連の商材が販売好調となっている。一方、日中関係の悪化によるインバウンドの影響は予想したほど出ておらず、売上は比較的好調に推移している。
	変わらない	家電量販店（営業担当）	・大阪・関西万博の影響で盛り上がっていた関西であるが、日中関係の悪化もあり、動きがやや落ち着いている。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（総括）	・百貨店売上は前年並みで大きな変化はないものの、お歳暮などのギフト需要は年々減少している。その代わりに、大阪・関西万博関連の商品がまだまだ好調で、売上の減少をカバーしている。一方、インバウンドの動きに大きな変化はみられず、中国の渡航自粛による影響も少ない。
	なったり悪くなる	一般小売店〔書籍〕（管理担当）	・大阪・関西万博の閉幕後は、来客数や売上が減少している。
		コンビニ（経営者）	・売上が減少しており、季節要因の影響が大きいものの、大阪・関西万博の閉幕も一因となっている。

家計関連	やや悪くなっている	コンビニ（経営者）	・大阪・関西万博が閉幕し、来客数が約5%減少している、客単価は上昇しているが、来客数の減少を補えるほどではない。
		旅行代理店（支店長）	・大阪・関西万博が閉幕し、関西に向けられていた客の旅行需要が、他の地域に向かうと予想していたが、現状はその動きがみられない。中国からのインバウンドの動きもほぼ止まり、関連業界も影響を受けつつある。
企業関連	変わらない	金融業（営業担当）	・大阪・関西万博は閉幕したが、特に受注量の増減はみられない。
	なっているやや悪くなる	食料品製造業（管理担当）	・大阪・関西万博の開催効果がなくなり、前年並みの推移となっている。
雇用	変わらない	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・関西企業のプロモーションや宣伝予算の推移は、年末にかけても特に変わらない。大阪・関西万博の閉幕後は落ち着いた動きとなっている。

「中国の渡航自粛」関連のコメント（先行き判断）

家計動向関連	変わらない	百貨店（外商担当）	・中国からのインバウンドの減少や、円高予想により、インバウンド売上は前年比で減少する可能性が高い。ただし、海外の高級ブランド品や高級時計に対する、国内の富裕層の消費意欲は、今後も旺盛であると予想される。
		高級レストラン（企画）	・中国からの渡航自粛により、予約の減少につながっているが、一部で国内旅行客の増加もみられる。また、春に向けて単価が高めで推移しており、来客数の減少をカバーしている。
		観光名所（企画担当）	・当施設が大阪・関西万博の会場と近いため、万博後しばらくは、国内客による来場が減ると予想している。中国からのインバウンドの動向が懸念されるが、インバウンド全体では回復が予想されるため、トータルの来場者数が維持できればよい。
	やや悪くなる	百貨店（企画担当）	・中国からの航空便の減便が更に進むとの報道もあり、春節期間の免税売上はかなり減ることが予想される。
		百貨店（マネージャー）	・中国の渡航自粛の影響が徐々に大きくなり、免税売上に占める中国の割合が低下している。前月は前々月と比べて3%の低下、今月は前半で5%の低下、後半には更に5%の低下となるなど、数か月前と比べて10%を超える低下となっている。この傾向は当分続くことが予想される。
		観光型ホテル（経営者）	・来年の先行予約状況では、1月と4月が例年よりも少し悪い。2月の春節商戦も、中国からの訪日客の減少による影響が出ると予想される。
		都市型ホテル（スタッフ）	・中国の渡航自粛により、2月の旧正月の予約が埋まらない。市内ホテルの単価は低下しており、価格競争となることが予想される。
		都市型ホテル（フロント）	・1月は元々閑散期であるため、期待はもてない。また、以前から中国の団体客は受け入れていないため、渡航自粛による打撃はないが、間接的な影響は出ている。周囲では、中国の団体客を多数受け入れていた施設が予約の減少で料金を下げたため、今後はインターネット予約の個人客がそちらに流れる可能性がある。
		旅行代理店（支店長）	・中国からの訪日客の減少は回復のめどが立たず、長引くことが懸念される。ミラノ・コルティナオリンピックへの訪問需要も少なく、需要回復に向けての盛り上がりにはつながらない。
		タクシー運転手	・中国からのインバウンドが減っているため、少し悪化する見込みであるが、混雑の緩和につながるなど、観光地にとっては一長一短とみられる。
		その他レジャー施設〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	・中国からの個人客の減少に加えて、気温が高く、他のスキー場がなかなかオープンしないことで、スキー需要の低下につながることが懸念される。
雇用関連	変わらない	職業安定所（職員）	・米国の関税の影響を少し受けている企業がみられる。また、中国の渡航自粛の影響も今のところは大きな影響はみられないものの、引き続き注視していく必要がある。
		その他雇用の動向を把握できる者	・今のところ、中国の渡航自粛による雇用情勢への大きな影響はみられない。ただし、渡航自粛が春節まで長引くようであれば、影響が出ることも想定されるため、今後の影響には注視が必要とみられる。
	やや悪くなる	人材派遣会社（営業担当）	・中国からのインバウンドの減少による、観光面での消費停滞の影響が懸念される。
		人材派遣会社（管理担当）	・このまま中国からのインバウンドの減少が続けば、更なる悪化が懸念される。

(D I の推移)



(近畿地域のDI)

		23年 24年												25年												
		12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
現 状 判 断	近畿	52.0	51.1	53.8	50.3	48.7	47.1	48.3	48.4	47.8	46.3	47.2	48.7	51.1	50.0	46.4	44.7	44.3	45.1	45.6	42.9	44.9	49.6	50.3	49.5	46.1
	(全国)	51.0	50.7	50.9	49.8	48.1	46.4	47.3	48.0	48.9	48.0	47.0	48.6	49.0	48.6	45.6	45.1	42.6	44.4	45.0	45.2	46.7	47.1	49.1	48.7	48.6
先 行 き 判 断	近畿	52.1	52.8	52.1	49.8	48.3	46.5	47.9	48.7	49.4	49.1	49.2	50.0	49.6	48.8	48.8	48.0	44.1	44.8	44.7	44.9	46.8	46.5	52.8	49.2	48.8
	(全国)	51.2	52.1	51.8	50.6	48.8	46.4	48.1	48.8	50.2	49.5	48.7	49.8	49.4	48.0	46.6	45.2	42.7	44.8	45.9	47.3	47.5	48.5	53.1	50.3	50.5

※季節調整値